

(1) 開院予定 2020年4月

(2) 建設地 千葉県成田市畑ヶ田字地蔵前852・853番1他

(3) 病床数 642床（一般病床600床、精神病床40床、感染症＜1種＞2床）

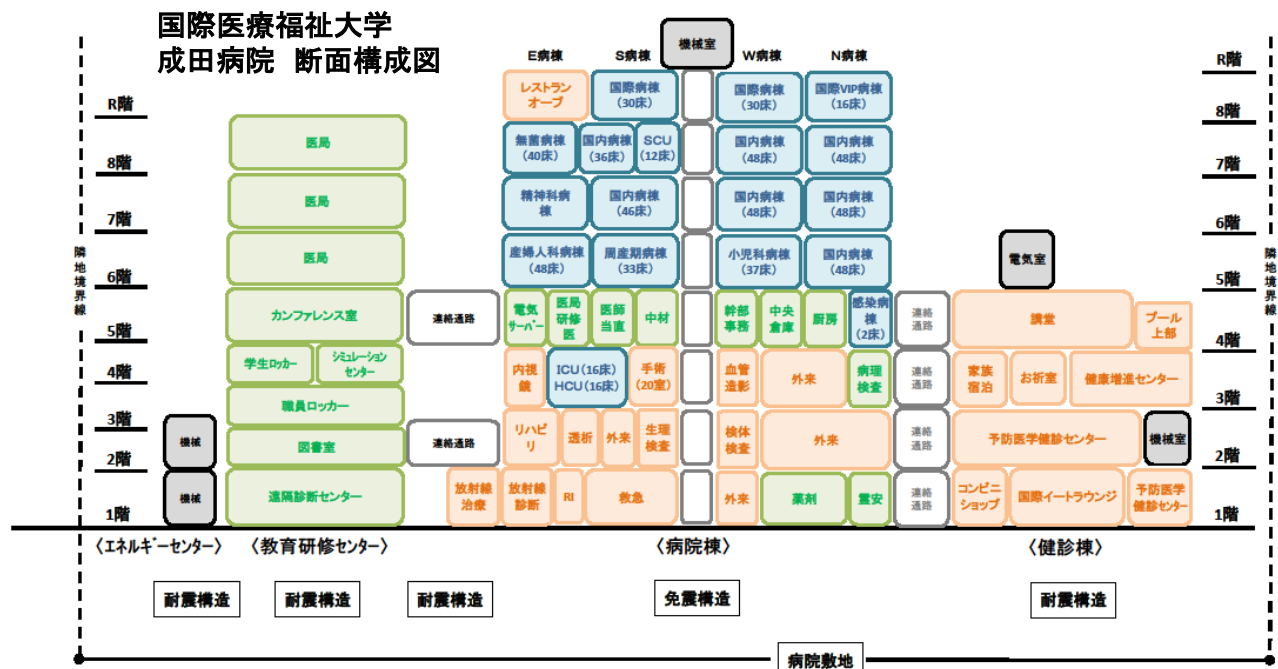
(4) 診療科 39科（予定）

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、
腫瘍内科、内分泌代謝内科、腎臓内科、神経内科、心療内科、
感染症内科、老年内科、アレルギー・リウマチ科、呼吸器外科、心臓外科、
血管外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、
形成外科、移植外科、内分泌外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、
産科・婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、
放射線治療科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、救急診療科、歯科口腔外科

(5) スケジュール

- ・ 2017年10月1日 着工
- ・ 2020年2月末 竣工
- ・ 2020年4月 開院

- (6) 敷地面積 159,605.65m²
建築面積 23,816.50m²
延床面積 123,770.68m²・・・①+②+③+④
内訳 ①病院棟・健診棟・エネルギーセンター棟 94,814.52m²
※病院棟77,572.81m²、健診棟15,465.41m²、エネルギーセンター棟1,776.30m²
②教育研修センター 10,843.24m²
③職員宿舎Ⅰ棟 11,915.71m²
④職員宿舎Ⅱ棟 6,197.21m²
- (7) 規模等 【病院棟】地上8階、高さ37.9m、RC造・免震構造
【健診棟】地上4階、高さ25.6m、S造・耐震構造
- (8) 総事業費 約700億円
(建築開発関係費：約610億円、設備機器備品等：約90億円)
- (9) 事業主体 学校法人 国際医療福祉大学
- (10) 施主 一般社団法人 成田国際医療都市機構
- (11) 施工者 戸田建設株式会社、鵜沢建設株式会社、株式会社ナリコー、平山建設株式会社



公津の杜地区【教育ゾーン】

- 医学部 ■ 成田看護学部・成田保健医療学部
- 大学院 ■ 国際遠隔診断センター

成田看護学部・成田保健医療学部

医学部【2017年4月開設】

畑ヶ田地区【学術・医療集積ゾーン】

- 附属病院 ■ 感染症国際研究センター
- トレーニングセンター

東京駅から成田駅・公津の杜駅まで電車で約60分
成田駅・公津の杜駅から車で約20分





1-5成田病院の概要



健診棟4F 講堂



病院棟5F廊下



病院棟8F 特別室



健診棟1F イートラウンジ



病院棟 1Fメインホール

○最新医療機器と充実したアメニティを備え、地元との連携をはかりながら地域医療で一定の役割を果たすとともに、東南アジアを中心に海外とのネットワークの拠点となり、国の内外の患者様へ最先端の医療をご提供する「世界基準のハブ病院」をめざす。

○海外の大学、医療機関との連携拠点となる「国際遠隔画像診断センター」や「感染症国際研究センター」、最新鋭の医療機器を導入した放射線部門や20室の手術室を整備。

○多言語に対応できる体制を整え、各国の食事の提供や、宗教関連スペースの整備も予定。

○日本最大級の人間ドックセンターを備えた予防医学健診センターや、プールやフィットネススタジオなどを備えた健康増進センターの設置を計画。

○病院職員の宿舎2棟(約370戸)や児童を対象とした事業所内保育所(約30名収容)を計画。

○国際医療福祉大学三田病院(東京都港区)や国際医療福祉大学の臨床医学研究センターである山王病院(東京都港区)と連携しながら、2020年の東京オリンピック・パラリンピックも見据え、成田ならではの質の高い医療とサービスの提供をめざす。

高度急性期機能

- 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能

※高度急性期機能に該当すると考えられる病棟の例

救命救急病棟、集中治療室、ハイケアユニット、新生児集中治療室、新生児治療回復室、小児集中治療室、総合周産期集中治療室であるなど、急性期の患者に対して診療密度が特に高い医療を提供する病棟

急性期機能

- 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能

回復期機能

- 急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能。
- 特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者に対し、ADLの向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能（回復期リハビリテーション機能）。

慢性期機能

- 長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能
- 長期にわたり療養が必要な重度の障害者（重度の意識障害者を含む）、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を入院させる機能

4-1 国際遠隔画像診断センター(テレラジオロジー・テレパソロジー)

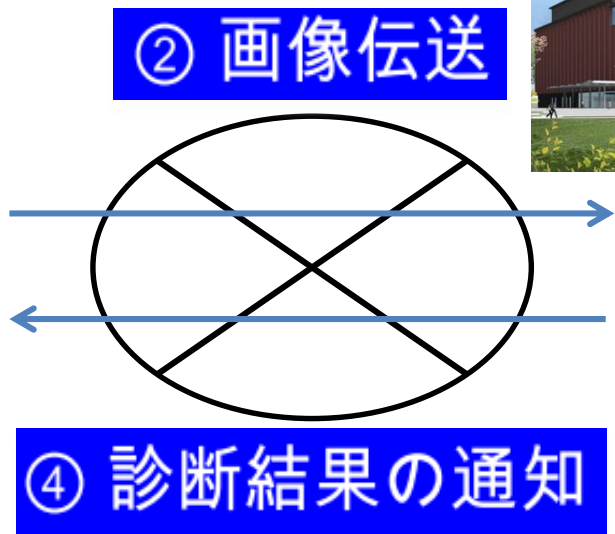
ベトナム
モンゴル
その他東南アジア各国の病院
本学の各国の拠点

国際医療福祉大学成田病院
国際遠隔画像診断センター



①病理検査

① 撮影



③ 診断



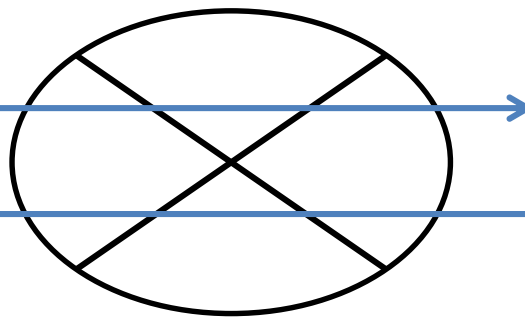
4-2 遠隔診療(テレメディスン)

ベトナム
モンゴル
その他東南アジア各国の病院
本学の各国の拠点



- ①診察
- ②検査等

- ③診断結果伝送
- ④検査結果等伝送
- ⑤患者と面談



- ⑦診断結果通知

国際医療福祉大学成田病院
国際遠隔画像診断センター



- ⑥診断
もしくは
セカンド
オピニオン

- (1) 感染症の診療、研究、および感染対策の各領域における専門家集団で組織を構成し、相互に連携しながら、国内最高水準の感染症センターをめざす。
- (2) 国際診療部門は海外から持ち込まれる特殊な感染症に対応し、国内での拡散を防ぐ初動体制を築く。状況に応じて国内外の専門機関と連携する。
- (3) 国内診療部門は感染症の診療レベルの向上に向けて、新しい検査法・治療法・予防法の導入や開発、チームによる診療体制、AIの活用などを行う。
- (4) 感染対策部門は院内各部署と良好な関係を築き、病院を挙げて感染対策に取り組む。また本学の他の附属病院と連携し感染対策の充実を図る。
- (5) 教育面では日本で最も多くの専門医を育てられる施設を目指し、他の職種についても感染関連の認定を取得可能な教育体制を作る。

ゲノム医学研究を中心としたゲノム医療・ゲノムリテラシー教育の推進とアジアへの展開

- (1) がん、難病に対するゲノム医学研究
- (2) 薬剤耐性の研究
- (3) ゲノム医学研究(研究成果)⇒創薬研究へ
- (4) ゲノム医療の実現
- (5) 全学的なゲノムリテラシー教育
- (6) アジアのゲノム医学研究・医療のハブ拠点を形成

予防医学健診センター

(1) 日本最大級の「人間ドックセンター」

- 特長…①男性と女性ができる限り交わらない動線
②男女別の外国人専用ドックスペースを設置
③内視鏡室を充実

(2) 健康増進センター

フィットネスクラブ、プール等を整備し、医療的なフォローのできるフィットネス施設を運営

その他

(1) レストラン「オーヴ」

最大220席

(2) 国際イートラウンジ

最大370席

(3) インバウンド対応

多数の言語に対応できる体制を整備